



Title	ピア・サポート広報の新たなかたち : 広報ビデオ「苦楽戦隊ピア・レンジャー」撮影秘話
Author(s)	岡本, 健; 小林, なつみ; 青柳, 祥子
Description	5. ピア・サポート広報の新たなかたち : 広報ビデオ「苦楽戦隊ピア・レンジャー」撮影秘話
Relation	北海道大学ピア・サポート活動報告書 (平成22年度版) pp. 69-89
Issue Date	2011-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45445
Type	report
File Information	05.pdf



5. ピア・サポート広報の新たなかたち

広報ビデオ「苦楽戦隊ピア・レンジャー」撮影秘話

5. ピア・サポート広報の新たなかたち

広報ビデオ「苦楽戦隊ピア・レンジャー」撮影秘話

岡本健¹・小林なつみ²・青柳祥子³

5. 1. はじめに

本章では、北海道大学ピア・サポートが広報の一環として制作している「苦楽戦隊 ピア・レンジャー」について、その制作経緯や制作の過程、今後の展開について整理し、ピア・サポートの広報の新たなあり方の効果を考察することを目的とする。広報ビデオ「苦楽戦隊 ピア・レンジャー」は、ピア・サポーター各自が様々な形で参加したものであり、代表が全てを統括して進めるようなものではなかった。また、初の試みということで、さまざまな苦労や紆余曲折を経て、制作に取り組んだものである。そこで、本章では、特に制作の進行に深く携わった3名による制作過程に関する対談を整理することで、目的を達成したい。本稿は、広報ビデオの監督を担当した小林なつみ、助監督を担当した青柳祥子、企画を担当した岡本健、が2011年2月19日にピア・サポート室にて対談を行い（図1）、その結果を岡本が整理し、青柳、小林が加筆したものである。



図1 ピア・サポート室での対談風景（左：小林監督，右：青柳助監督）

¹ 北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻 博士後期課程

² 北海道大学 教育学部 学部生

³ 北海道大学 農学部 学部生

5. 2. 広報ビデオ撮影のきっかけ

岡本：さあ、三者対談ということで、始まりました。私は企画を担当した北海道大学ピア・サポーター代表の岡本健（北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 博士後期課程2年）です。

小林：監督を担当させていただいた教育学部3年の小林なつみ（北海道大学 教育学部 学部3年）です。

青柳：助監督を担当させていただきました青柳祥子（北海道大学 農学部 学部3年）です。

岡本：さて、基本的に時系列で、広報ビデオ「苦楽戦隊 ピア・レンジャー」について、我々三人でそれぞれに思い出せるエピソードとか感想を語っていく形でやっていきたいと思います。広報ビデオ制作は、誰か一人が主導的にひっぱっていったと言うよりも、各段階で色々な問題もありつつ、なんとか軌道にのってきた、という経緯があります。そういうことですので、それぞれが知っていることを持ち寄る感じで話していくのが、読者の皆さんにもわかりやすいんじゃないかと思いますので、そういう感じでいきましょう。

青柳：広報ビデオをやるという企画の発案は岡本さんからでしたね。

岡本：そうだった。確か、2010年5月ごろだったと思うけど、「本活」が終わって次に何をやろうか、っていうのがあって映像制作を思いついた。これまで、広報ってビラとかチラシとかだったけど、それだとサークルや部活の宣伝として大学構内で大量に貼られている。今さらその上に乗せても目立たないと思った。もっと目立つものがないかと。

小林：なんでビデオだったんですか？

岡本：ちょうどそのころ、自分が研究で関わっている埼玉県の鷲宮町（現在は合併し、久喜市となっている）というところで、映画「鷲宮☆物語」の制作をやっていて、それに脚本で関わらせてもらったのが大きかった。映画撮影の現場を目の当たりにして、映画の制作って、すごくたくさんの方の力があって初めて可能だっていうのが分かった。もちろん実際に制作に関わらなくても、映画館でエンドクレジットで大量の人の名前が流れていくから、それを見ればわかることなんだけど、現場を目の当たりにすることで、すごく実感した。それと、自分が考えたことや、人と話していたアイデアがだんだん映像作品として形になっていく過程には感動したし、自分のアイデアを人に的確に伝える難しさなど、集団で何かを作る時に考えないといけないことをたくさん学べた。だから、ピア・サポートでも映画制作みたいなことを皆でやれば、色々勉強になるんじゃないかと思って企画しました。

小林：岡本さんが「広報ビデオ撮るからとりあえずアイデア出して」、みたいな感じで、みんながアイデア出して行きましたよね。確か、「鼻毛が出て困る」という相談が

来てピア・サポーターが解決する、とか、そういうのもあった気が（笑）。皆よく色々と思いつくなあ、って感心していました。

青柳：私は、皆が出すアイデアがかなりふざけていたから、ビデオを作ること自体が冗談だと思っていました（笑）一時ノリについていけなくなった時期があって、ピア・サポート大丈夫かな、って心配になっていました（笑）

岡本：そうそう、皆全然本気じゃなかったね（笑）

小林：誰が何を担当しているのかとか、どうやって物事が決まって行っているのかとか、そういうのも全くわからなかったし、なんか、それぞれがたらいまわしにしていた感じがありましたね。

岡本：まあ、自分がいきなり言い出したから、皆がやる気にならなかったのは仕方がないんだけど、じゃあ他に何をやるんだよ、って言ったときに積極的にアイデアが出たわけじゃなかった。毎回の活動時間にも自主的に動いていたわけでもなく…。それが自分はずごく不満だった。お給料もらって、ピア・サポートメンバーとして活動させてもらっているのだから、何か仕事を見つけてやるべき。ピア・サポートみたいな取組みって、何もやらないと本当につまらない活動になると思う。メンバーが生き生きと活動していないと、傍から見ても、「つまらない組織だな」って思われるだろうし。

5. 3. 意識改革の「第1回会議」

岡本：…とまあ、波乱の船出、というか、船出すらしていないような感じで8月を迎えちゃいますが（笑）。

青柳：8月19日に第1回会議をやって、そこから本格的に動き出したよね。

小林：そうそう！あの会議は大変だった。

岡本：自分はその会議出てないんだよな。どんな感じだったんだろう？

青柳：とりあえず取組みを反省するところからだった気がします。

岡本：そうだそうだ、会議の前にメーリングリストかなんかで、自分が結構きつい内容のメールを送ったんじゃないかな？

青柳：そうです。「岡本さん、本気で怒ってる」って思って…。

岡本：いやいや、別に怒っちゃいなかったんだけども（笑）、ちょっと一発メール投げた、皆がどういう反応をするかなと。そしたら、一番反応したのが青柳さんだった。正直、すごく嬉しかったですよ。

青柳：いや、ほんと、どうしようかと思いましたよ（笑）

岡本：狙い通りで良かった（笑）でも、反応しない人は反応しないから、そうやって危機感持ってくれた青柳さんには感謝です。

青柳：小林さんと会議のための相談したんだよね。

小林：そうそう。飲み屋で会議のために相談した。その時、すでに脚本は数本上がって

いて、いくつか候補が絞り込まれていたんだけど、それが決まったのも、何人かしかいないような場面だったから、皆の総意が得られて無かったんですよ。脚本自体は悪くなかったんだけど、皆が事態を把握してなかったから、一から仕切りなおす必要がありました。

岡本：皆が動かんから、テキトーな感じで自分が進めたんだっと思った。そしたら、ちゃんと「これは真面目に考えないと！」って思ってくれて良かった。青井さんが声をあげてくれたんだっと思った。

小林：岡本さん、テキトーすぎです（笑）でも、それで、自分たちがやらなきゃ、って思ったのは事実ですね。脚本をがんばって書いてくれた人が気分を害してもいけないし、かといって、ここで馴れ合いにしてたらちゃんと進まない。それを皆にわかってもらって、今後進めていく体制を確認するための会議でした。だから、メンバーに対する説明の仕方とかすごく難しかったです。

青柳：この後、小林さんが新しい脚本を書き始めてくれたんですよ。

小林：岡本さん、青柳さんはじめ、メンバーのいろんな人からアイデアをもらいつつ、脚本を新しく書き始めました。缶コーヒーのボスのCMで宇宙人が地球に調査に来るっていう設定のものがあって、それを元に考えました。レンジャー系とかは、岡本さんからでしたね。クラーク星人ネタは松田先生から。

青柳：松田先生が！？

小林：意外にも（笑）

岡本：自分がレンジャー系にしようっていうのは、メンバーの平さんが戦隊物大好きなのを知ってたから、協力を取り付けられるだろうっていうのもあった。平さんが戦隊物好き、って話は前から聞いてたけど、どれぐらいのものかわからなかったからマニアっぷりを見てみたいっていうのもあったな（笑）あと、宇宙人が文明を授けたっていう設定は、「エイリアン VS プレデター」のイメージだった。

青柳：いろんな人のアイデアで脚本ができあがったのが良くわかりますね。

5. 4. 脚本の完成と配役の決定

岡本：第一回会議の後の動きはすごかった。二人とも姿勢が全然違っていた。

小林：会議の後は、頻繁に青柳さんと二人で会って、がんばったよね。

青柳：メールのやり取りとか電話とかでもかなり話し合いましたね～。

小林：8月28日の岡本さんの結婚式のために、お祝いビデオを撮影しましたね。あの時に、映像を撮影して編集するっていうのを具体的にどうやるのかが分かって、楽しかった。

青柳：その時にピタゴラスイッチの真似をしたんですけど、中根さんの技術とか発想がすごかったんですよ。それで、今回の映画でも美術をお願いしたいっていう話になっ

たんだよね。

岡本：結婚式の余興は本当にありがとうございました。めちゃくちゃクオリティ高かったですよ。動画なのに途中止まったりして大変そうでしたが（笑）余興についてはお願いしたものの、正直ここまでやってくれるとは思っていなかった。期間もそれほどなかったはずなのに、よくぞここまで！という出来で、有り難かったです！ちょっと涙ぐみました（笑）

小林：いえいえ！でも、広報ビデオの方はなかなか順調には進まなくて、9月20日あたりは、お風呂でも喫茶店でもネタを考えてましたよ。

岡本：芸人か！

小林：本当にそんな感じでしたよ。「おおブレネリ」という曲を使ったら面白いかなとか、アニメ「アルプスの少女ハイジ」の曲を使えたら良いとか。今、その時期のブログを見たら、「がんばれ脳下垂体」って書いてある。

青柳：なぜ脳下垂体？（笑）なんかずいぶん大変な感じだね…。

小林：ネタを考える時に、コーヒーの飲みすぎてたのか、この時トイレが近くて…利尿作用のあるバソプレシンをちょっとだけ心配したんです（笑）

岡本：高校生物を思い出すなあ。

小林：それで、10月13日に第二回会議をやりました。

青柳：配役とか小道具の担当を決めたんだよね。

岡本：会議資料を見ると、配役は

クラーク星人-岡本

ナレーション-平

ピア・サポーター-高橋、奥塚、藤原、青柳、浦家

学生（携帯）-青井

学生（牛）-中根

学生（サークル）-厨川

学生（ボール）-小林

ってなってます。ピア・サポーターっていうのはピア・レンジャーのことだね。大体完成版に近い感じに仕上がっている。確か、会議が終わった午後に小林さんと会ったよな。確か小林さん警察にやっかいになってなかったっけ？

小林：いやいや、そんな罪を犯したみたいな言い方しないでくださいよ（笑）事故にあっって、それで警察署に行っていたんですよ。

岡本：なんともなかったから笑い話で済んで良かったよ。それで、警察署の前で待ち合わせして、喫茶店でケーキとお茶しながら、アイデア練ったよな。

青柳：どういう話をされたんですか？

岡本：脚本は上がったから、今度はカット割りとか絵コンテとかが必要だということになったんじゃないかな？

小林：そうでした。ビジュアル的なところで、昭和の怪獣雑誌みたいなのが良いとか、岡本さんが言ってて…。

岡本：そうだった。冒頭のクラーク星人と人類の出会いを描いた歴史の部分で絵を使うってことになって、ヘタウマっていうか、手作り感が出ている方が良いっていう話だったね。脚本は上がったから、後は実際に撮影する時に、アングルとか、必要なビジュアルとかを確定する必要がある、って話がメインでした。

小林：映像撮るのって大変だなあって思いましたよ。脚本だけでもあんなに悩んだのに、次はどう撮るか、ってことですからね。

5. 5. 北大農場の協力を得てクランクイン

青柳：10月20日にクランクインということで、農場での撮影をやりましたね。

小林：このシーンは「学生シーン1」ですね。中根さんが牛に追いかけられます(図2)。北大生が悩んでいるシーンの一つで、やることが多くて大変っていうことを比喻で表現したものです。

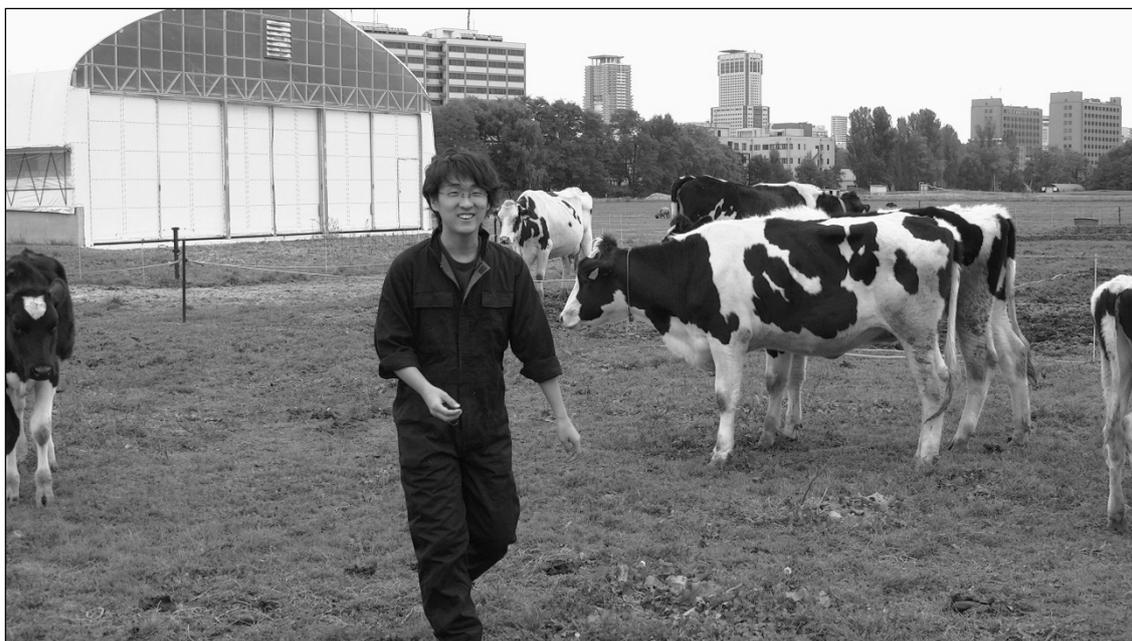


図2 クランクインは「学生シーン1」農場で牛と中根さんが共演

青柳：浦家さんが、農場を管理していらっしゃる先生に話を通してきて、撮影できることになったんですね。

岡本：自分も撮影に参加したけど、どう撮っていいのかわからなかったよな。

小林：牛の自由度がすごかったです。

青柳：意外にうまくいかなかったですね。

岡本：牛が思ったよりおとなしくて、普通のエサだと食いつきが悪く、あんまり「殺到」する感じじゃなかった。そこで、先生に「わっと牛が寄ってくるような絵が撮りたいんですが」っていったら食いつきが良いエサを持ってきてくださって、中根さんがマジで牛に追いかけられ、迫真の絵が撮れました（笑）

青柳：農場の先生がとてもよく協力してくださって、有り難かったですね。

岡本：そうだね。あんまり農場をアピールするような内容で使わないから申し訳ないんだけど…。何か、農場のアピールになるようなこともやっていきたいね。

小林：このシーンについては、本当に全然構図とか決まっていなくて、いきなり撮影に入っちゃって、ご迷惑をおかけしました。

青柳：牛を撮影するのに、雪が降ってきちゃうと困るから、急いで撮影したんだよね。

岡本：時間的な問題があったから仕方ないし、誰も撮影の進め方を知らなかったわけだから仕方ないよね。だけど、失敗は失敗だったから、この撮影が終わった後にタイムマネジメントの話をした気がする。

小林：その通りですね。撮るべきシーンはちゃんと事前に決めて、時間とかも何時から何時まで決めて、役者さんとかスタッフさんをあんまり拘束しすぎたらまずい、とか。その上で、もし長引いた時に、役者さんがそれに応じてくれたら、それはラッキーというか、役者さんありがとうっていう感覚を持つとか。これって、映像撮影だけに限ったことじゃなくて、会議とかでもそうですよね。そういう意味で、こういう経験は色々なことをやる時に役立つと今になって思います。その時は、そんなことを考えている余裕全然無かったです（笑）

青柳：撮ってる時は必死だよね。そう考えると、こういう振り返りの場って良いね。

5. 6. 企画趣旨の説明と小道具の購入

岡本：11月上旬に近久先生、松田先生、渡辺先生に企画説明に小林さんに行った。

小林：そうでした。あの時は、色々ご迷惑を…。

岡本：確か前日に酒を飲んでたかなんかで、吐きそうって言ってた（笑）

小林：そ、それは言わない約束では…。ゼミの2年生の歓迎会があったので仕方無かったです！

岡本：でもまあ、二日酔いになるほど飲まなきゃ良いわけで（笑）

小林：ああ…。おっしゃる通りです。すみません。

岡本：お酒には気をつけて（笑）。話を元にもどすと、正直、大学で正式にやるにはかなり冒険的な企画だったと思うんだけど、先生方はすごく寛容で、「大いにやりなさい」、っていう感じだった。もちろん、我々もただ勢いでふざけたことをやろうとか、常軌を逸したことをやろうとか、そういうことを考えてたわけじゃなくて、かなり真

剣に企画を練っていたっていうのはあると思うけど。やっぱり企画の意図や理由がはっきりしていないと、許可はもらえないよね。

小林：おっしゃる通りですね。学生が目線で考えちゃうと、勢いとか、にぎやかさとか、そういうことばかり考えてしまうのですが、それをやる意義とか、それをやって誰かに迷惑がかからないかとか、そういうこともきっちり考えて、事前にいろんな人にアドバイスをもらったり、話を通しておいたりすることは本当に重要ですよね。先生方が企画を応援してくださり、アイデアも出してくださって、ほんとうに有り難かったです。その後、11月10日に事務の佐藤さんから、物品購入のゴーサインが出て、色々必要物品を買いに行きました。

青柳：11月26日に下見に行って、11月28日にTOEICの試験が終わった後に、レンジャースーツ、シルクハット、クラーク星人用の全身タイツ、とかを買いに行きました。でも、クラーク星人用の鼻眼鏡が無かったんですよ。

岡本：出た！「鼻眼鏡を探す女」。

小林：なんか都市伝説みたいですね（笑）「口裂け女」みたいな（笑）。

青柳：（笑）店員さんに結構しつこく聞いちゃったんですよ。「鼻眼鏡はいつ入荷しますか？」って。そしたら、12月1日に入荷するってことだったので、12月1日の10時の開店を待って鼻眼鏡を購入しました。

岡本：なかなかいないだろうね、開店と同時に鼻眼鏡買いに走る人は（笑）。そういえば、この日って青柳さんは、自分と一緒に同じ店に買い物に行かなかったっけ？

青柳：そうです。12時からピア・サポートの会議に出席した後、岡本さんともう一度買い物に行きましたね。クラーク星人用のステテコとか、手袋とか、本人に行ってもらわないとサイズがわからないってことで。

岡本：確か、双眼鏡も買ったね。地球を観察するためのものとして使うんだけど、割とイメージ通りのものが安くあった。

青柳：何回もお店に通ったので、店員さんに顔覚えられていたと思います（笑）

小林：「この人、いったい何するんだろう？」って思われてたんじゃない？（笑）

5. 7. 「ピア・レンジャー」衣装合わせとポーズの確認

小林：そうやって、買ってきてもらって、12月5日にピア・サポート室で衣装合わせしたんですよ（図3）。衣装合わせとポーズ確認で3時間かかりました。

岡本：3時間も！？

青柳：いやあ、大変でした！でも皆さん、本当に協力的で、長々とお付き合いいただきました。

岡本：ここは、戦隊物の専門家、平さんの出番だったんじゃないか？



図 3 3 時間におよんだピア・レンジャーの衣装合わせと決めポーズの練習
(藤原さん-緑、高橋さん-桃、浦家さん-赤、奥塚さん-青、青柳さん-黄)

小林：そうなんです。ピア・レンジャーのポーズは平さんに担当してもらっていて、当日は来られなかったんですけど、五人のフォーメーションとか、一人一人の動きを書いた資料を渡していつてくれたんです（次ページから、資料全文を掲載）。これは監督として、本当に助かりました。資料を残して行ってくださったおかげで、ポーズがちゃんと決まりました。

青柳：文章からちゃんと動きがわかるもんね。

岡本：青のポーズだけは、「お願いだから木彫りの熊っぽくして」ってお願いしてたんですよ（笑）

小林：岡本さん、「木彫りの熊が鯉くわえてるところは絶対入れたいねん」ってかなり初期のころから熱弁してましたからね（笑）

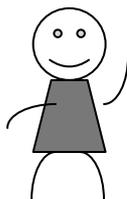
青柳：こだわるところはものすごくこだわりますよね（笑）

岡本：局所的にね（笑）資料の中の「一人メルヘン」っていうのが専門用語過ぎてわからない（笑）。それにしても、すごいクオリティだね、これ。この資料作るのにめちゃくちゃ時間かかってるんじゃないだろうか、研究とか大丈夫なんかな（笑）。これは戦隊物の研究、絶対本気でやった方が良いよ。

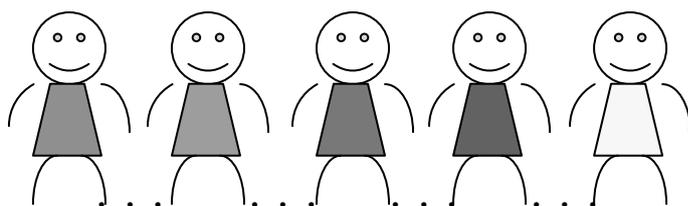
ピレンジャー変身名乗り原案

- ① 赤「行くぞみんな！」的な呼び声

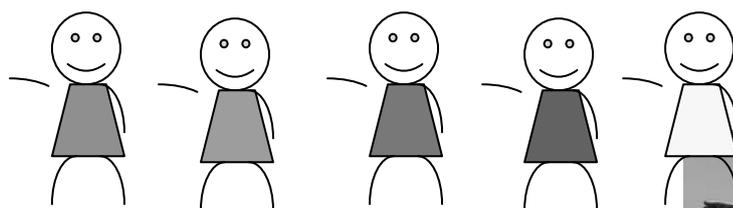
ガッツポーズ→



- ② 他「「おう！」」とわらわらと出てくる。下の図は顔が笑っていますが、覇気を持って構えてください。赤は真ん中、両側は少し内側を向くような感じで。顔は全員正面向いてて。



- ③ 赤「我ら」全員「苦楽戦隊！！」



↑ クラーク先生のポーズ。
スチャッと決める。

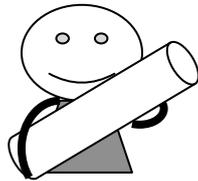
参考 (⇒)



- ④ 赤 武器を手にする部分をアップで。スチャッと。



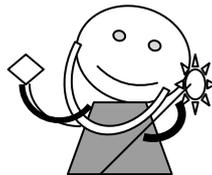
⑤緑 武器を手にする部分をアップで。スチャット。まだ担がない。



⑥黄 武器を手にする部分をアップで。(武器…とりあえず、ここはスプーンで?)



⑦桃 武器を手にする部分をアップで。ここはスチャットしなくてもよい。かわいくブリ
っと。



左手にお花、右手に聴診器かな?

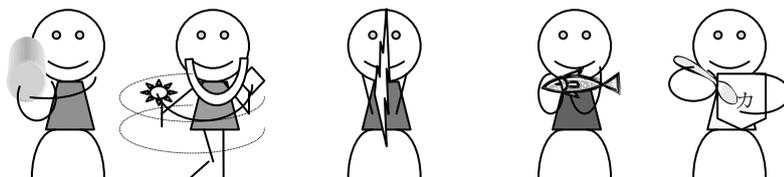
一人メルヘンで可

⑧青 武器を手にする部分をアップで。スチャット。某とったどー的な。



※④～⑧を0.5秒くらいずつパッパッパッと映すイメージ

⑨ 全員「[[[[「ピアレン」]]]]」



赤：前にライトセイバーを構える。

桃：やることがないので、くるっと可愛く一回転

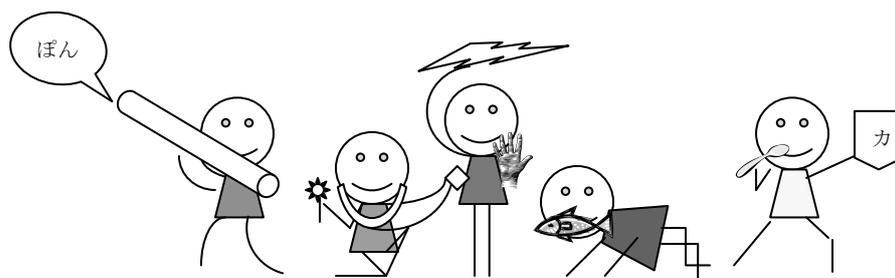
青：魚を口にくわえる

緑：ロケットランチャーを正面に構える（担ぐ？）

黄：スプーンでカレーをすくう

※高さを全員あわせるときれい

⑩ 「「「「ジャー！！」」」」



赤：足を閉じて、直立。

片手…ライトセイバーを頭上に高く持ち上げ、横を向ける。

もう片手…手のひらを正面に向ける。歌舞伎の見得のように。

桃：女らしくしゃがむ。首をかわいく傾げる

片手…お花を持つ。小指あげる。

もう片手…聴診器を持ち、どさくさにまぎれて赤の胸にあてる。

青：木彫りの熊状態（仮決定らしい）

緑：ロケットランチャーを構えて発射。足は、広げてどっしり構える。

黄：緑と対照に足を構える。

片手…カレーを掲げる

片手…スプーンを口に持っていく

※高さは、赤が一番高く、次に黄いろと緑、そして、ピンク、青の順でW型。

小林さんへ

とりあえず、全員で名乗る場合の流れを考えました。そちらに合流できなくてごめんなさい。急ぎで無理やりワードを使って作ったので、伝わらない部分もあるかと思います。また、黄のカレーをどうするのか迷っているとのことで、こちらも我ながら微妙な形になってしまいました。カレーって毒入りでしたっけ？最後のキメで口に入れちゃったよ…(; _ _)

原案ですので、こっちの方が面白い、こうした方がきれい、この構えは現実的に無理…など当日いろいろ案を出して改良してくださって構いません。この図では顔は笑っていますが、実際は覇気をみなぎらせてね☆

5. 8. 撮影前半（2010年12月～）

青柳：次は12月上旬に、中根さんが特撮場面用のクラーク像型着陸艇を作ってくれました。

岡本：ある日ピア・サポート室に行ったら黄金のクラーク像が置いてあって驚いた（笑）

青柳：すごいスピードで、ピア・サポートのシフト中に、ぱぱっと作ってしまっていました。

小林：事務の前川さんが金色の塗料をくださったんですよ。それを水に溶いて、その中にクラーク像を浸ける作業をしたね。

岡本：次は、1月中旬に絵画が完成しました。平さん、青柳さん、浦家さんが取り組んでくれた。かなり曖昧な注文の仕方だったと思うんだけど、「こんな感じで、ひとつよろしく！」みたいな…、皆それぞれに解釈して作ってくれていたね。自分は絵心が無いので、絵のうまい人がたくさんいて、助かった！

小林：なにせ、岡本さんの絵はこれですからね…（図4）。

岡本：まだ残ってたのか…。我ながらひどすぎるな…。

小林：これは代々ピア・サポートに伝えていきますよ。初代代表が描いた芸術的な絵として額縁に入れて（笑）

青柳：（笑）ナレーションに合わせるために、まだ数枚書かなければなりません、とりあえず使えそうな絵になって良かったです。



図4 岡本が描いたクラーク星人イメージ図

小林：12月15日は、「学生シーン2」と「悩める学生シーン」の撮影でしたね。

青柳：雪が降っていました。

岡本：寒かったよなあ。監督的にここで苦勞したことはある？

小林：厨川さんの説得が難しかったですね。まあ、かなりひどい恰好をさせるので…（図5）。



図5 出番を待つ厨川さんとカメラをチェックする小林さん

岡本：…確かにひどいね（笑）。よく厨川さんOKしたなあ。

青柳：監督の交渉術がすごかったんですかね（笑）

小林：いやいや（笑）厨川さんは優しいので（笑）これは、サークルや部活をかけもちし過ぎて、困っている様子を表したもので、柔道着やチアリーダーの衣装、グローブ、テニスラケットなどを身に着けています。コートをかけているのは、これから外に行くので寒くないように。でも、バットを背負っているからちゃんと着ることができていない感じです。この格好で、体育館前でラケットの素振りをしてもらいました。

青柳：こんなに部活道具がたくさん揃ったのが驚きですよ。

岡本：これはどうやって調達したの？

小林：ピアのメンバーが協力して、たくさん持ってきてくれました。どうやって集めようかと思っていたので、とても助かりました。

岡本：そして、この日は監督も役者だったんですよ。

小林：「悩める学生」役でした。岡本さんのマンツーマンのこけ方指導がありましたね。

青柳：こけ方指導！？

岡本：そうそう、豪快なこけっぷりをどうするかっていうね。「いいか？今からこけてみせるから良く見ておけ！」という感じで。

小林：岡本さん、めちゃくちゃリアルなこけ方だったんですよ。雪まみれになって、メガネまでどこかに飛んでいってしまっ。

岡本：まあ、途中からは演技っていうか本気でこけてたけども（笑）。

青柳：次は12月22日ですね。この日もすごく寒かったんですが、体育館の前で、ピア・レンジャーの登場シーンを撮影しました（図6）。



図6 苦楽戦隊「ピア・レンジャー」登場！（手前は「悩める学生」）

青柳：ピア・レンジャーの撮影の時は、4人組の外国人の方が来て、ピア・レンジャーを見て、「一緒に写真を撮りたい」とおっしゃって、記念撮影をしてくれました。帰って行かれる時には、「地球の平和を守ってください」と（笑）。

岡本：おお！北大内を飛び越えて、いきなり海外進出だね（笑）

青柳：藤原さん（緑）は実は知ってる人だったらしいんだけど、恥ずかしいということで、マスクをかぶって隠し通してました（笑）。

岡本：ピア・レンジャーは、「悩める学生」がこけたところに現れるから、「悩める学生」も一緒にいないといけなかったわけだね。画面に映っているだけで6人、撮影者も入れたらこの時点で7人は手がふさがってるわけだね。撮影はかなり大変だったんじゃないか？

小林：そうなんです。撮影に人が全然足りなかったんです。でも、事務の加福さんと佐々木さんが撮影に協力してくれて、すごく助かりました。

岡本：撮影された動画で見たけど、事務のお二人が花火に火をつけてたもんな。すごい協力体制。普通あり得ない。有難いことです。

小林：本当に色々のご協力いただきました。事務の方には、花火を使う際の許可についてもお世話になったんです。学内で勝手に花火をやってはいけないので、許可が必要でした。当たり前と言えば当たり前なんですけど、一つ一つ許可を取ってやっていくこ

との大事さを実感できました。

青柳：なんでもかんでも「やりたいからやる」っていうわけにはいかないよね。色々な人と調整したり、許可を得たり、大変だったけど、皆が嫌な気持ちをしないように、トラブルになったりしないように、調整するのってどんな仕事でもきっと同じなんだろうね。

岡本：そうだと思う。ただ、逆にここばかり考えて、縮こまってしまったら面白いものがない。実行する時には色々と考えないといけないことは多いんだけど、「これはやりたい！」っていう推進力は大事にしないといけないと思う。その両立が重要なんじゃないかな。

5. 9. 撮影後半（2011年1月～）

岡本：2011年1月8日に開かれた他大学のピア・サポーターが集まる「ぴあのわ」で、広報ビデオについて発表したね。本当は「苦楽戦隊ピア・レンジャー」を撮影していたんだけど、うその予告ビデオを作って発表したりとか（笑）

小林：もちろん、発表の中の演出であって、特にだますつもりは無かったですよ（笑）12月は暇さえあればその準備ばかりやりましたね。

岡本：そして、ピア・レンジャーショー的な感じで、他大学のピア・サポーターの皆さんの前で醜態…いやいや、雄姿を披露した（笑）

青柳：最初は恥ずかしさもありましたが、何度もやっている、だんだん楽しくなってきました（笑）

岡本：あとはあれだな、小林さんと自分で掛け合い漫才的な発表をしようってことで。

小林：直前に決まりましたよね（笑）

岡本：様々な演出が当日決まって、レンジャーショーの流れとかも、行きの飛行機で打ち合わせしてたからね。よくぞ皆さんあれだけまとまった発表をしてくださったものだと感心しています！

青柳：本当に、皆さんのアドリブ対応力には感心しますよね。

岡本：本活も、1回目の「ぴあのわ」で発表して、他大学の先生方が「本活、素晴らしい取り組みだと思います」と評価してくださって、自信がついた。今回もピア・レンジャーについて、あたたかいお言葉をいただけて、非常に励みになったね。

小林：その「ぴあのわ」の帰り(1月9日)に、携帯電話を調達しましたね。

青柳：青井さんが出ている、「学生シーン3」のシーンのためのものです。

岡本：撮影は2011年1月11日(図7)。

小林：この日は、たくさんの携帯電話が次々と鳴って、その対応に追われる様子を撮影しました。友達とのつながりを維持することに追われている様子を表しています。



図7 ピア室での学生シーン3の撮影風景（青井さん）

- 岡本：この時、ちょうど撮影中に電話かけたんだよね。ちょっと遅れますって。
 青柳：そうです！驚きました！本当に電話かかってきたよって（笑）
 岡本：（笑）撮影現場には少し遅れて行ったんだけど、確か撮影はすでに終わってて、「ずいぶんスムーズに撮影できるなあ」、って思った記憶がある。
 小林：かなり慣れてきて、段取りを細かく考えてあったので、とてもスムーズにやれました。
 青柳：「もっと良い映像にしよう」って工夫をする余裕もできたよね。
 小林：青井さんも、すごく協力的で、どうやったら学生らしく映るかとか、そういうことを中心に、自分で色々と考えて、提案してくださってすごく助かりました。
 岡本：青井さん、役者ですな。
 小林：次は、岡本さんの撮影ですね。クラーク像前で撮影しました。岡本さんはクラーク星人役で、クラーク像型着陸艇で地球に着陸し、そこから出て来るシーンや、北大星観察用の双眼鏡を出すシーンですね（図8）。
 青柳：1月12日の午後でしたね。かなり吹雪いていて寒かった！岡本さん、全身タイツで寒くなかったですか？
 岡本：不思議と演技している時は大丈夫でした。動いているからだろうか。
 小林：撮影の手際が良かったからかと（笑）
 岡本：いや、かなり厳しい監督の演出だった（笑）何度もやらされたし（笑）
 青柳：でも、撮影している方も結構寒かったですよ（笑）
 岡本：演じている方は動いているけど、二人は立ち止まって撮影しているから、それは

それで寒いよな。

小林：岡本さん、観光客の方と写真撮ってましたよね（笑）

岡本：そうそう。大阪から来られた観光客の方が、クラーク像の写真を撮られていたの
で、「ちょうどクラーク星人がクラーク星から来ていますが、一緒に写真とりませんか？」
と言って一緒に写真を撮っていただきました（笑）

青柳：その方の良い記念になっていると良いですね（笑）



図8 猛吹雪の中のクラーク星人（岡本さん）登場シーンの撮影

岡本：ちなみに、撮影の次の日から風邪を引き、声が出なくなりました。

小林：え～！そうだったんですか！

岡本：いや、でも監督の満足のいく画が撮れていれば、それで良いです。役者冥利に尽
きます（笑）

青柳：1月26日と28日は小林さんが2日かけて編集作業をしてくださいましたよね。

小林：クラーク星人は、双眼鏡型を使って北大生の様々な様子を観察します。そのクラ
ーク星人から見た視点を編集で作りました。双眼鏡をのぞいている感じにするところ
の編集作業がすごく大変だったんですよ。私はパソコンはじめ電子機器に弱くて、編
集ソフトもなかなか使うのが大変で…。ソフトの使い方を含め、双眼鏡のところにつ
いても奥塚さんが色々と工夫してくれました。作業が終わった後は、卒業研究のため
に研究室に颯爽と帰って行かれました。

岡本：一時、奥塚さんが卒論で忙しくて、姿は全然見ないけれども、映像の編集作業中
だけ現れる、という幽霊話か何かのように語られていたね（笑）

小林：本当にお忙しいところを何度も来ていただいて、有難うございました！

岡本：次は2月9日に特撮シーンを撮影しましたね。

小林：鑑水さんが手伝ってくれました。

青柳：鑑水さんは、ピア・サポーターではないのですが、2011年1月17日から1月28日まで、ピア室で展覧会を開催して下さった「二次元芸術研究会」のメンバーのお一人です。ピア・レンジャーの音楽や音響などについても、全面的にご協力いただいています。

岡本：鑑水さんと自分で紐を持って、UFOを滑空させたね。ピア室にあるプロジェクタでスクリーンに地球の背景を映して、UFOが地球に接近している様子を撮影した。

青柳：何度もやりすぎて、UFOを支えていた紐がこすれて切れてしまい、UFOが墜落してしまいましたね（笑）。

岡本：いやいや、笑いごとちゃうがな（笑）像がちょっと欠けてしまった…。

小林：こうして話してみると、それぞれのシーンで、ほんとにいろんなエピソードがありましたね。ピア・サポートのみんなにも手伝ってもらっているし、ピア・サポート以外の人達にもたくさんお世話になっていますね。完成したら、皆さんの元にご挨拶に伺わないと！

青柳：そうだね。いろんな人にお世話になった。あと、私にとっては、小林さんにすごく影響を受けました。小林さんは、この映像制作を本当に一生懸命がんばっていて、それでも弱音を吐いたりしないから、すごいなと思った。

小林：いやいや、かなり自分の能力の限界で、大変でした（笑）青柳さんに電話で色々愚痴を言えたり相談できたのはとても助かったよ。だから気持ちが楽になって続けられていると思う。

岡本：自分からの色々な無茶ぶりや注文を小林さんが受けて、それが青柳さんに行ってたわけか（笑）一時期、小林さんはかなり疲れた様子で、正直「大丈夫かな？」と思うこともあったけど、本当に良くがんばっている。自分が偉そうに言うのもなんだけど、今回の広報ビデオ制作で、一番成長したのは小林さんだと思う。

小林：そうですか？なんか照れますね（笑）

5. 10. 「苦楽戦隊 ピア・レンジャー」から得たもの

岡本：さて、色々話が出てきたし、まだまだ細かいところでは色々あると思うんだけど、それはまたメイキング映像か何かを作るとして、そろそろ対談は終わろうかと思えます。それでは、最後に、広報ビデオ制作に取り組んでみてどうだったか、っていう全体的な感想を話して終わらしましょうか。

青柳：とても楽しかったですね。最初は実現不可能だと思ったけど、やっていて、スキルアップにもなったし良かったと思う。助監督って言ってもらってるけど、私がか

しているというよりもピア・サポーターの皆に支えられてるなあ、っていう感じがしました。それと、一番勉強になったのは、人との話し合いつて重要なんだなっていうところ。メールとか文章だけだと伝わらないことも多くて、ちゃんと伝わってないこともたくさんあった。そういう意味で、直接会って話をすることの大切さがわかった。あとは、やっぱりピア・サポートのメンバーはすごいなっていうことを改めて感じました。色々な場面で、協力していただいたし、発想力とか、何か作ったりする時のクオリティとかとても高くてすごいなあ、って感心することが多かったです。

小林：まだ完全に完成したわけじゃないんで、全然気が抜けてないですね。2月末からフィンランドに行くからその前に完成させたかったけど、できてない。スケジュール管理とか、まだまだだと思ふ。自分のできてないところがよく解ったし、逆に、できることも解ったので、結果的にはやれてとても良かったです。脚本を書いたり、撮影したりしていると、ピア・サポートという活動はいったいどういうものなのか、っていうのを深く考えました。「苦楽戦隊 ピア・レンジャー」って人を助ける話を撮影しているはずなのに、自分がそれで悩んで、「私が助けて欲しい」って思ったこともあります（笑）だから内容的には「ピア・サポート」のことをよく表したものになっていると思う。ただ、途中でちょっと感じたことなんですけど、「押し付けられている感」みたいなものがありましたね。映像制作に対してすごくやる気がない発言をされたり、他人事みたいな態度をされた時は、すごくそれを感じました。もちろん、ピアのメンバーは忙しいのはわかっているのですが…。でもそれも、青柳さんや岡本さんと進めていく中で、面白いものを作っていく楽しさが感じられたおかげで前向きにやれるようになった。大変な時は頼れる人がいたから良かった。自分のことや人のことが良くも悪くも知れたと思う。特に、自分の限界とか、どこまで忙しくなると人に迷惑をかけてしまうかがわかった。一人で抱えてしまわずに、早めに人にお願いすることとか、人に対して何かをお願いするやり方も学べてすごく良かったです。団体で何かプロジェクトを進めていくっていうやり方がわかりました。

岡本：あと、音楽とか音響とか、編集作業も結構残っているけど、ここまで形になってきたのは、本当にすごいことだなと思います。二人が協力して皆を引っ張って行ってくれたからだろうな。正直言って、最初はこんなふうまくいくとは思っていませんでした。でも、何か面白いことをやらないと、つまらない組織になっていって、結局「活動してるのか活動してないのかよくわからない人達」になってしまうのが嫌だった。だから、広報ビデオをぶち上げたわけです。もちろん色々狙いは考えてたわけだけど、逆に、広報ビデオが嫌だ、ってことで、違うことを皆が自主的に考えて、それが面白ければそれでも良いなって思った。だけど、小林さん、青柳さんが乗って来てくれて、会議もしっかりやって、皆の合意を形成して進めてくれたので、「おお！これは行けるな」と。今回、特にスケジュール的なところでは、あまり細かく考えず、とにかく作る、完成させる、っていうことでやっていたね。普通の仕事であれば、納

期があって、それに間に合うように内容を詰めていく。だから、変な言い方になるけど、手抜きというか、間に合うような内容をやる。でも、ピア・サポートは、チャレンジする組織であって良いと思うんだよね、というか、チャレンジしないとだめ。だから失敗しても良い。失敗しても良いけど、学生のためになることをやるのが我々の役割だから、それに関して一生懸命考えるし、クオリティも出来得る限り上げる努力をする。そういう形で、学生のうちに色々チャレンジすることは、卒業して何をやるにしても良い経験になる。少し大きな話になるけど、社会に合わせよう、周りに合わせようっていうことばかり考える大学生活はつまらないと思う。さっき小林さんの話でもあったけど、他人がどういう態度を取ろうが、自分が面白いって思ったことに対して生き生きとチャレンジしていくことって重要だと思う。個人として自立して、その上で他者や社会とどういうふうに関係性を持って、何をして生きていくのか、それをじっくり考えられるのが大学という場だと思う。今回はそういう機会になった。あとは、他の組織の方にピア・サポートの活動を説明する時に、このコンテンツは面白いよね。それに、新メンバーの勧誘の時にも使えそう。せっかく良いものができそうだから、これからこのコンテンツを色々展開していきたい。是非シリーズ化して、ピア・レンジャーが部活やサークル、学内のサポート資源を紹介するとか、ピア・レンジャーショーやるとかね(笑)。あ、ピア・レンジャーカフェも良いかも(笑)色々夢は膨らみますが。そろそろこのあたりで終わりにしたいと思います。今日は、お二人とも長々とお疲れ様でした！お付き合いいただき、有難うございました！

小林・青柳：お疲れ様でした！有難うございました！



図9 対談お疲れ様でした！

